

岳連
ニュース

宝永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成30年6月11日発行
第25号



山教室を7月に「甲斐駒・仙丈岳」に登ろうをテーマに座学と実習の4回セットで実施し、秋山登山教室を10月に御岳山を目標に、一般市民を対象に計

しずおかスポーツフェスティバルは、西部ブロックが担当し、10月に秋葉山・京丸山で県内の岳人を集めて実施する。京丸山コースでは希望者は旧藤原家に泊まることのできる。

この他、19年版岳連カレンダーの販売、岳連ニュース「宝永」の年4回の発



平成30年度の通常総会が4月21日、静岡市の「あざれあ」で開かれた。任期満了に伴う役員改選では、滝田会長を再任した他、副会長、理事長、監事も再任とした。

議事では、前年度事業報告、決算報告などを行い、新年度事業計画、予算案などを審議し、新年度体制での岳連事業の推進に意識を高めた。

事業計画では、夏山登山教室を7月に「甲斐駒・仙丈岳」に登ろうをテーマに座学と実習の4回セットで実施し、秋山登山教室を10月に御岳山を目標に、一般市民を対象に計

滝田会長を再任

平成30年度通常総会 事業計画決まる

平成30年度の通常総会が4月21日、静岡市の「あざれあ」で開かれた。任期満了に伴う役員改選では、滝田会長を再任した他、副会長、理事長、監事も再任とした。

議事では、前年度事業報告、決算報告などを行い、新年度事業計画、予算案などを審議し、新年度体制での岳連事業の推進に意識を高めた。

事業計画では、夏山登山教室を7月に「甲斐駒・仙丈岳」に登ろうをテーマに座学と実習の4回セットで実施し、秋山登山教室を10月に御岳山を目標に、一般市民を対象に計

スポーツクライミング全体連絡会議

4月1日(日)岸記念体育館にて、47都道府県(7欠席)とJMSCA委員25名が参加して開催された。

平山副会長あいさつ
国体委員会
・ブロック大会で指導者資格の失効(更新義務研修未受講)しているにも関わらず、成年女子の監督を行った件があった。
・来年度福井国体の準備状況について(リハーサル大会は、リードジャパではなく、日本学生スポーツクライミング対抗選手権大会として実施)
・ブロック大会において、表彰式前にアンチドーピングの簡略化した講習会を行う予定。

新役員は次の方々。
▽会長 滝田博之
▽副会長 前川朝夫、清水雄三
▽理事長 木ノ内高嘉
▽副理事長 出利葉義次
▽監事 豊田稔、高橋弘
(木ノ内高嘉)

追加種目として入ったこの競技を継続させるためにも、上記の大会および評価が重要。
日本人がJMSCAの委員に継続的にいる必要がある。運営資金や人材の不足が懸念されており、関東中心のメンバーでは苦しい。地方からも人材が欲しい。全体の感想としては、東京オリンピックに向けて、一段と選手強化。大会運営・マーケティングなどが大変になっている印象が強い。県でも多くの人が必要を感じている。
(諸戸明)

6月常任理事会

日時 平成30年3月12日(月) 18時30分~20時
場所 静岡労政会館
出席者 滝田、清水、前川、木ノ内、出利葉、豊田、高橋、工藤、松永、増田、市川、坂田、内海田中、内山、諸戸、浅井) 計17名
会長挨拶
①団体名称について
・日体協が日本スポーツ協会に名称変更。
・県岳連も名称変更は近頃の様子を見ながら検討していく。
②創立70周年記念誌の印刷発注済み
③通常総会 4月21日

④山の日の行事 フェスティバルを当てたい、4団体と共に8月で検討する。

①、各委員会報告事項
男子の優勝1、2、3位まで中学、女子 1位小学5年2、3位中学2年と若年化している
②、海外登山委員会(出利葉)
エルブルス計画 参加者富士宮山岳会2名ケルン1名エクスペディション2名、他2名、ガイドは雇わず、工程の準備を進めている
日程は8月9日~19日となり、申込みは4月末まで

③、日山協全国理事長会議

2月18日東京フォーラムエイトで開催する。出席(木ノ内)
スポーツクライミングは発展していくが登山部門は今一つの感じである。合田常務理事からガバナンスの構築が求められているとの意見が出され、県岳連の名称でいくと「スポーツクライミング」はどこでやるの?と問われる。
「スポーツクライミング」の言葉を岳連の名称に入れて欲しいとの要望がある。
国体の予選会の運営が

4月常任理事会

4月9日(月) 18時30分から、静岡静岡労政会館
苦しく(施設費、セッター料)SCが重荷になってきている。
岳連のなかの登山部門が登山道の整備などをして事業費を捻出しているが、実際にはスポーツクライミング部門に持っていかれる事例もある。
④、指導委員会(内海)
・雪山登山教室
2月25日実施、参加者14名+役員2名計16名、座席は10名
アイゼンを着用し良い雪山の経験が出来た。
(浅井徹)

で常任理事会が開催された。

出席者 滝田会長、清水副会長、木ノ内理事長、出利葉副理事長、豊田、高橋、堀内、工藤、松永、増田、市川、鈴木、坂田、兼子、内海、田中、諸戸、前川の18名出席
滝田会長から「本日は通常総会の準備打合せを中心に行います」と挨拶。
事業報告 特になし
事業計画
国体委員長より、国体県予選会を5月3日(木)浜松スクエアとB・SPOで実施する。運営のお手伝いのできる方はお願いしたいと運営員の要請あり。
お手伝いのできる方は諸戸委員長に連絡する。
通常総会
平成30年度通常総会は、4月21日(土曜)13時から「あざれあ」で開催。
総会の役割分担等について、担当者を決めた。
総会資料全体の内容を読み合わせ、29年度事業報告、全体と各専門委員会内容を検討した。事業実計画(案)についても全体の内容、各専門委員

会の内容を検討した。

会計報告は、今年度の未収金のない事を確認し収支について説明を受け了承した。
予算(案)では、国体費を計上した。スポーツトレーナー派遣の県体補助の不足分として岳連から宿泊、日当などの補助を盛り込んだ。
役員改選
滝田会長と役員再任が提案された。総会では慣例で役員選考委員会を立ち上げて協議してきたが、総会後の講演会、祝賀会が控えているので、常任理事会の案を総会にかけることで了承を得た。
3月末で、静岡ケルン山岳会、静岡こまくさ会、湖西山の会の3クラブが退会した。これにより加盟団体数は19団体となった。
その他
70周年記念講演会には50名の参加者がある。
祝賀会では、長年県岳連に尽力された、塩澤前副会長、豊田元副会長に感謝状と記念品を贈る。
(前川朝夫)

南ア春山相談所開設

南アルプスの春山相談所が、4月27日から5月6日までの10日間、沼平の指導センターで開設された。
県遭対協からの要請により、県岳連から延べ19名の指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間延べ55名が常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を

行い、安全登山の一翼を担った。

この期間の沼平からの入山者は、計70パーティで、男性95名、女性21名、計116名であった。内訳は、茶臼岳・光岳方面が53パーティ、聖岳方面が5パーティ、赤石岳方面が6パーティ、青雉山などその他が6パーティで、前半が少なく後半は多く、全体では昨年より少なかった。
今年の積雪は例年より少なく、気温は高かった。指導センターの朝は6~7度。天候は5月2

日3日の午前中、雨が降った

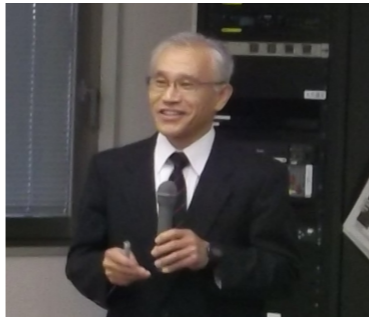
が、指導センターから仁田岳が良く見え晴天が多かった。稜線が強く、引き返してきた単独の数パーティがあったが、晴天の日が多かったので事故はなかった。
なお、7日のテレビニュースで赤石岳に登り下山してこないとのことで、救助隊が捜索に行くとのことであった。単独の登山者が増えており安全登山に心がけてほしい。
(豊田稔)

70周年・記念講演会・祝賀会

4月21日(土) 静岡市内の「あざれあ」で「H30年通常総会」に続き講演会をその後場所を「中島屋」に移し「祝賀会」を実施しました。

記念講演会は、昨年9月に実施した「中高年安全登山指導者講習会」で講演頂き、好評だった、国立登山研修所専門調査委員で名古屋工業大学北村憲彦教授の講演でした。

内容は平成29年3月に那須で発生した「高校生雪崩事故」を引用して、遭難事故を減少させる話でした、その要旨は次のようなものでした
記念講演会
「中高年登山の問題と現状について」
1 那須雪崩事故から



事故は平成29年3月27日朝8時、生徒7人と引率教師1名の死亡、40名のけが。
前夜20cmの積雪、力量に差がある高校生の講習会、班構成における生徒と講師の所属が不一致。目的はラッセル訓練だったはずだが、沢筋から平坦な場所まで終了せずに、更に登って事故に遭う。毎年実施している講習会禁止の冬山登山ではないと扱うため、県教育委員会のチェック除外。
目的が「冬山になじもう」では明確さがなく曖昧になつてしまう。
5月連休の春山向け講習であるが、その講習自体が厳しい冬山時期での開催となつている。
キックステップの練習を行うのが不明確、引率者より体力のある高校生と強い主張、高校山岳部の指導者不足、大勢人がいることでの正常性バリエーションが働いてしまう。

2 山岳遭難の現状
昭和の時代は20〜30代が遭難世代だったが、平成に入り、高齢者が主流。死亡者、行方不明者の数は一定だが、遭難者の数は右肩あがり、40歳以上が78%を占める。



道迷いも一応は遭難であるが、転倒・滑落や病気はレベルの違う遭難で、半数は死亡に直結する。心臓や脳に関する病気は、山に入ると発症しやすい状態になる。
3 山岳事故を無くすには
鈴鹿山系で登山者アンケートを13年から継続して実施している。又、登山者の求めるものは、標識、登山情報、駐車場・トイレで、施設化を推進させる傾向にある。
登山道整備と情報提供は、入山者を増やすだけ

で、登山事故はなくせない。かつては登山者の組織化によって、単独山行による遭難をなくす方向があった。
自立した登山者の教育に加え、登山チームというシステムで安全登山を目指していくことが大切である。
登山者自身の知識や技術と信頼感のあるパートナーができれば事故は減少する。留守本部としての役割を含め登山チームとして行動するようにする。
止めるための決め事、引き返す勇気ではなく、引き返す計画を立てておくこと。
事故を最小限にし、死にそうなる人を助ける「ダメージコントロール」には、無線・携帯等通信が有効な手段である。
待機者のフィジカル支援とともに、家族や仲間からのメンタル支援も大変効果的。
若年層の登山事故が増加していることは、高校山岳部の顧問の高齢化も大きな要因となっている。
祝賀会
鈴木県警救助隊長、望

月静岡市山岳連盟会長、記念講演会講師の北村先生の来賓のほか加盟団体から50名の出席を得て、



静岡グランドホテル中島屋で開催された。
席上、塩澤前副会長、豊田元副会長が多年に亘り県岳連の発展に貢献され、その功績が顕著であると認められ、滝田会長から感謝状と記念品を贈呈した。
所属山岳会の方々が一堂に会する貴重な宴席となり、盛況に催された。
各山岳会の皆様との交流に有意義なひと時を過ごすことが出来ましたこと、参加者の方から感想をいただきました。
(坂田昇)

「3ページから続き」
「高野山女人道、町石道ハイキング」、青春18切符を利用した「鎌倉アルプス」等が行われました。また、ブログ「島田ハイキング」を開設し常に新鮮な活動状況を発信することで、外部の方との情報交流の場としても大いに役立っています。
発足から当会に所属してきた経験から、会員同志の目に見えない信頼関係の存在にありがたさを感じています。昨今、山岳会離れが言われていますが、無理のないスタンスで所属してもらおうことで、振り返ってみると味わいのある大切な存在であることに気付くのではないのでしょうか。
今後も益々会員各々の志向に応じた多様なスタイルの山歩きに広がっていくことを期待したいと思います。



第73回国体予選会

本年度の福井国体の予選会が5月3日にリードをスクエア、午後にはポルダリングをB・SPO Tにて少年男子25名、少年女子11名、成年男子3名、成年女子2名の参加を得て実施しました。昨年度より、JOCジュニアオリンピックカップの名簿順作成の対象大会となっているので、オープン参加の選手6名が参加した。競技は、リードの少年



男子では、メイン壁の傾斜の強い部分を超えるルートで、片桐君とオープン参加の鈴木音生君が、力のある登りをみせ完登。(12c d) 少年女子は、

傾斜の強い部分を超え上部壁に到達した6名の中で、片木さんと中里さんが同到達高度で1位(12c)。成年女子は少年女子と同ルートで、2名の選手は、少年女子の最高到達点を超え、リードを得意とする中村が完登し、力を見せた。成年男子は、上部にポルダリング的なムーブのあるルートで、若宮さんが力のある登りをみせ、終了点に迫ってフォールした。(12d 13a)

その後、B・SPO Tに移動して行われたポルダリング競技は4分間オンサイト・4課題のベルトコンベアー方式で、少年男子は片桐君が、バリエーションに富んだ4課題を4完登5アテンプトの1位で強さを見せ、赤池君が4完登10アテンプトで続いた。少年女子では片木さんが4完登5アテンプトで1位、続いて小学生の永嶋さんが3完登で続いた。少年女子と同課題の成年女子は、北脇さんが全課題一撃で力



セッターをお願いし当日も競技の終わるまで見届けていただいた、松原さん、伊藤さん、滝浪さんからコメントをいただいて閉会した。毎年会場を提供していただいているスクエアさんB・SPO Tさんには大変感謝申し上げます。大会の上位3名の選手は以下の通り。

- 成年男子
1位 若宮京介 2位 原賢伸 3位 関翔太
- 少年男子
1位 北脇順子 1位 中村祐香梨
- 少年女子
1位 片桐綾真 2位 鈴木音生 3位 赤池俊
- 成年女子
1位 片木麻音 2位 中里溪夏 3位 永嶋美智華

島田ハイキングクラブ 会長 池谷延房

静岡県山岳連盟元会長の故田中克己氏が中心となり、96年に島田市で開催された「市民登山講座」受講メンバーを主体に翌年創立されました。今年で創立22年目を迎

山岳会紹介

「山を楽しみたい」との思いにより一から始まった会として、毎月の定例山行を中心とした活動により、会員同志の親睦や技術・体力が深められ、01年に5周年記念の赤石・権島集中山行、10周年の安倍奥東山稜全山縦走、

している会報誌「やまびこ」で、今年2月に創刊250号を迎えました。当会報は、連絡手段であると同時に、定例山行の山紹介、山行報告や思い出、作品等を自由に発表できる場を提供し、会員自身の考え方や山に対する想いを理解できることから、お互いの親睦に大変役立つと思っています。しかし、創立以来20年以上を経て、会員の平均年齢も上昇しています。そこで、会員数の維持や新入会員の研修を目的として、登山教室を開催しています。創立の契機となった当時の講座受講者の年齢は、40〜50歳代前半が主だったと思います。現在、現在の教室受講者は50〜60歳代に上昇し時代の変化を感じます。一方で平均年齢上昇と長い経験による良い面として、山行スタイルの多様化が現れ、頂きを目指すスタイルから、歴史・文化も同時に楽しむ事を取り入れた山行も活発になってきました。昨年は「京都トレイル完踏」や(2ページ下段に続く)